○狭子路

荒川の畑銀山に往復した道で、畑銀山盛んなりし頃は往来もはげしかつたといわれる。この道を登つて畑山に出ると、昔は周囲一尺二、三寸の芽子（はぎ）が生えていたという。子どもなどがよじ登つても折れなかつたが、ある人斧をとつてこれを倒してしまつたという。

西に与惣左エ門森、大森、小森がそびえ、東には道祖神がまつられており、正徳（一七一一～一七一五）、享保（一七一六～一七三五）まではこの道から白滝に下る道があり、この小径を下つて滝の不動尊に詣でたものという。

ある時、日のうとい老夫婦がこの道を下つて来て、みなぎり落ちる滝の白さを路とあやまつて、手をとりあつたままこの滝に落ちて死んだ。村人の一人がこれを発見して両人の屍をひきあげ山に埋め弔つた。白滝には峯より塩を流し、岩まで塩をもつてみがききよめたという。このことがあつてから、この道はとめ新道をつくつた。今も付近に祖父長嶺、祖母長嶺とよばれる地があるが、これは、夫婦の屍を埋めたところから来ているという。

（峯吉川）